



## ギガスクール元年 タブレットを使って学習を進めています

新聞で取り上げられましたが、この10月から高浜市内小中学校の全児童生徒にタブレットが配られました。市内全児童生徒配付は東海4県で初だそうです。

これに合わせて、市内の教員は、8月に数回にわたる研修や9月以降のオンライン研修を受け、授業でタブレットを使えるよう備えてきました。

すでに8月後半から65インチの大型電子黒板が各教室に設置され、教科書や資料、子ども達のノート、作品を映し出しています。電子黒板上に書き込みもでき、授業では頻繁に使ってきました。視覚に訴える資料を提示でき、子ども達の理解が進むようです。また、学習活動を撮影し、動画や画像を振り返りに使っています。

今回、「ロイロノート」というソフトを使うことにより、教員と子ども達のタブレットがつながり、教員が子ども達に資料を送ったり、子ども達一人一人が書いたことを先生に送り、みんなで見合ったり、情報を共有することができるようになりました。学習したことは、個々のタブレットに保存されていきます。

11月からはタブレットを家庭へ持ち帰ることが可能になり、家庭での復習・予習や調べ学習に活用することになります。また、Eライブラリーで自分の力に合わせた自主学習ができるようになります。前に学習したことに戻ってやり直すこともできます。学習結果は記録され、学級担任が把握することができます。

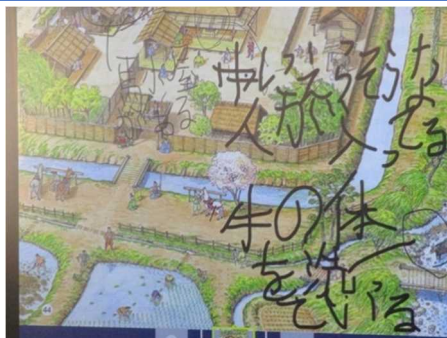
今後、電子教科書の導入が見込まれます。また、場所を選ばず使えるので、社会見学、実技の支援、鑑賞、プログラミング、プレゼンテーション、・・・と活用の範囲がどんどん広がっていきます。まだ緒に就いたばかりですが、段階的に進めていきます。

なお、再び学校休業になってもタブレットを使って家庭と学校を結び、授業を続けることができます。高浜市はLTE方式を採用しましたので、家庭にWi-Fi環境がなくても通信可能です。もちろん、先生と子ども達が教室に集い、反応を肌で感じ、学びを深めていくことは何物にも代えがたいと思っています。



【タブレットを使った授業風景】

## ロイノートを使った6年社会科授業「武士の暮らし」



「武士の暮らし」のイラストが個々のタブレットに送信されると、子ども達から「おー」と声が漏れ、目はイラストに集中。イラストは拡大することが簡単にでき、細部まで見ることができます。

【イラストに描き込み】

【送られてきた友達の書き込み】

貴族と比べ武士らしいところを次々とチェックし、書き込みを入れて先生に返信します。誰が返信し終わったか、担任は把握。できていない子を置いてきぼりにしません。

人の書き込みを全員で見て、新しい発見が生まれます。いずれは、タブレットを使って子ども同士で意見交換ができるようになるそうです。担任が書いた板書は写真に撮り、後で見ることができるよう保存しておきます。ICTを活用した授業にはさまざまな利点があり、効果を探りながら活用を進めていきます。

## mBot が自動走行！！ 5、6年プログラミング授業



【プログラムを解説する加藤正直講師】

【mBot】

【タブレットを使ってプログラム】

高浜市では、小学校5、6年生のプログラミング教育にロボットを取り入れています。授業はICT支援員の加藤先生が行っています。ロボットへの指示をプログラムすることにより、コース上で自動走行するようにします。「左右に○秒旋回し、○秒走行する」といった指示をいくつも組み合わせ、目的地に着けば成功です。ところが、実際走行させるとずれてしまいます。ずれはロボットの個性だそうです。その個性を知った上で、数値を微調整していきます。次回は、ロボットに取り付けられたセンサーが障害物を感知し、目的地まで走行できるようにします。子ども達は四苦八苦しながらも、mBotが徐々に指示通りに動くことに面白さを感じながら取り組んでいました。

(文責 中川健二)